

# 『 姉 』

松阪市立中部中学校 1 年生 庄島侑希

私には、3つ違いの姉がいます。私が生まれた時からずっと一緒です。姉はちょっと普通のお姉さんとは違います。

自閉症と知的障がいを持つ手先の器用な姉です。

母の話では、私と姉の二人はいつも一緒に双子のようだったそうです。しかし、いつの間にか私が姉の成長を追い抜いていったということです。

私の姉は、手先が器用で、折り紙で鶴を何千羽も折って、楽しんでます。その他、刺しゅうやパッチワークなど私より、上手に作ることが出来ます。でも、世間の人々が姉を見たら、きっと、「変な人」と映るだけにちがいないと思います。本当は、まじめで、努力家の姉です。

しかし、世間の人には、一人言をつぶやき踊って歩く姉の姿は、不気味にしか思えないと思います。

自閉症は、脳の障がい、親の育て方が悪い訳ではありません。

私は、よく姉の学校へ行きます。今は、名が変わり、特別支援学校といいますが、以前は養護学校と呼ばれていました。

姉の友達には、ピョンピョン跳んだりする人や、教室から逃げ出す人がいます。小さいときから姉の療育と一緒にいった私にとっては見なれた光景ですが、普通の学校では、ありえないことです。

母から聞いた話ですが、自閉症の人たちは音や臭い、皮ふなどの五感に敏感だそうです。言葉などでのコミュニケーションがうまくできず、「嫌だ」という言葉が言えないための行動が教室から逃げだす原因の一つだと母から聞きました。外見だけで、判断されがちな行動も、心の底にある気持ちの現われであることを、多くの人に知ってもらいたいと思います。

私の姉は、小さい子ども、とくに赤ちゃんに興味があります。姉は赤ちゃんを見ると、「赤ちゃんね。」「かわいいね。」などと言い、触りたがります。正直私は、その場から離れるか、赤ちゃんがどこかに行ってくれないかなという気持ちになります。本当は、姉はかわいいなあと思うだけでなんの悪気もありません。でも、それはわからないので、赤ちゃんを触らせてくれる人もいますが、姉をバイ菌のように見てそのまま立ち去る人もいます。

どうしても姉が、バイ菌扱いされることが許せません。その行動は、私の心に刺さります。私は、姉のように障がいを持っている人を優しく見守ってくれる人の多い、そんな世の中であってほしいと思います。

今、私の姉は、たし算に挑戦中です。8たす5を13と言うところを、姉は、「10」と言ったり、まだまだちんぷんかんぷんです。しかし、姉は夜の勉強を風邪をひいても休みません。

昨日、作業所というところに仕事の体験に行きました。夏の暑い中何時間も畑の草取りをしたそうです。私だったら、真夏の暑い中、虫がたくさんいるところで、草取りはしたくありません。しかし、姉はまじめに仕事をしていたそうです。本当にすごいなと思います。仕事のペースは遅いですが、まじめさだけは、だれにも負けないと思います。

一人の人が少し、もう一人の人が少し、という具合に、一人一人の小さい親切があれば、姉たちのような人たちは、ずいぶん生きやすくなると思います。

世の中には必ず、障がいを持った人は、生まれてくるそうです。人間が人間である限り子孫へ命はつながって行きます。人間としての遺伝子は、いろんな逆境の中、生き残ろうとします。普通の遺伝子ばかりだと、インフルエンザなどの恐ろしい病気が発生すると一瞬にして死にたえてしまうが、特殊な遺伝子を持つ障がい者の人たちの遺伝子は生き残るそうです。そうして私たち、人間は続いていくのです。

古代の文明では、障害者は、神様のように崇められていたそうです。なぜなら、そういう人たちのおかげで、命が未来へ続いていくことを知っていたようで、昔の壁画に描かれているのが残っているとのこと。

私たちが今、生きていられるのもそうした人たちのおかげであることを、もう一度思いだして、感謝しあえば、みんな幸せになると思います。もし町で、障がい者を見かけたら、なにも出来ないにしても、変な目で見てほしくありません。

ぼつんと、知らない外国へ一人、放り出された気分を想像してみてください。不安と恐怖の中、一生懸命がんばっている人だなあと思って見てやってください。きっと、気持ちだけは、障がい者の人を理解できると思います。

静かに温かく見守ってもらっただけで、本人も家族も幸せです。